

大学のスポーツ推薦入試制度に関する問題点  
ースポーツ推薦入学者へのインタビュー調査を通してー  
The Problems of Sports Recommendation System on University.  
-Through the Interview Investigation to Sports Recommendation Student.-

1K08B191-1

町野 瑛

指導教員 主査 友添 秀則 先生

副査 宮内 孝知 先生

【本研究の動機】

私の在学する早稲田大学には、数多くの学生アスリートが在籍している。世界レベルの大会で日本代表として活躍する選手、甲子園を賑わせた選手などと大学生活を共にしてきた。私は大学生活の中で、メディアが映し出し社会がイメージしている華やかな学生アスリートの姿と裏腹に、学業と競技の両立や、練習に重点を置き、就職が決まらないなど学生生活に苦勞をしている姿を見た。その姿に、多くのジレンマを感じてきた。どうしたら改善することができるのだろうか。

私は、スポーツ自己推薦制度で早稲田大学へ入学した。高校は進学校ではなかったし、朝から晩まで部活漬けの生活を送ってきた。高校時代に最低限度の勉強もする環境になかった私は、スポーツ自己推薦制度がなければ早稲田大学に入学することはできなかった。部活動の戦績と評定平均で第一次試験を突破し、第二次試験を受けたので、受験勉強は小論文と面接対策しかしていない。勉強のできる学生もスポーツでトップクラスの学生も数多く在籍している早稲田大学での生活により、私は人間的に大きく成長出来たのだが、その一方で高校までの学習環境がもたらす学力の差に強い違和感を感じた。スポーツに特化し入学するものの、学生生活に困難を及ぼす学生アスリートの問題と、学力的に様々な学生が共存している大学内での違和感が生じているのは大学をつなぐ入試制度に問題があるのではないかと考えた。スポーツ推薦入試制度に着目して問題と背景を明らかにし、学生アスリートがより学業にも競技にも集中できる環境を考えるべく、本研究を行う。

【本研究の目的】

本研究では、大学の推薦入試制度、スポーツ推薦入試制度の変遷を追いながら、入試制度の現状を明らかにすること、学生アスリートの社会で問いただされている問題点とスポーツ推薦入学者の抱える問題点の調査を行うことから、彼、彼女らがより学業にも競技にも集中できる環境を作るために大学推薦入試制度の引き起こす問題点を考察すること及び提言することを目的とする。

【本研究の概要】

〈第1章〉

「大学入学者選抜実施要項」より、スポーツ推薦制度を中心に大学入試の変遷と背景を辿る。研究の対象にしてきたスポーツ推薦制度は社会の流れと共に変わってきた。大学における入試制度は文科省から出される「実施要項」によるものである。1866年以降実施要項に表記はあったが、偏差値偏重の社会がはびこっていたため、普及に至らなかった。1980年代後半か

ら、個々の能力が重視され個性的な学生の育成が求められるようになった。以降、スポーツ推薦制度をはじめとした多様な入試制度が拡大した。しかし、学力試験を免除したものが大半であったため基礎学力の身につけていない大学生が多く見られる状況にある。

〈第2章〉

第2章では入試形態が多様化したからこそ生じる問題、また問題を引き起こす要因を明らかにする。第1節ではスポーツ推薦制度が引き起こす3つの問題について詳しく述べることとする。また第2、3節で早稲田大学に着目し、その要因を明らかにすることとする。

問題として、スカウトのための金銭授受や合否を巡る問題、学力の保障を挙げている。大学スポーツの活躍というのは、大学のイメージを作り上げるものであり、在校生の愛校心を強めるものである。推薦入試の散乱がこうした問題を引き起こしている。早稲田大学を例にとっても、スポーツ科学部の創立、スカウト制のスポーツ推薦をはじめとする様々な入試形態の導入が成功し、“強い早稲田”を作り上げた。早稲田大学でも、入試制度を見る限り、先ほど挙げた問題点が起こり得ないとは言え切れなかった。

〈第3章〉

第3章では早稲田大学のスポーツ推薦制度入学者へのインタビュー調査を通して、学生アスリートの問題を明らかにする。入試について、学習面や交友関係を中心に調査を行った。インタビュー調査によって早稲田大学の多くの学生アスリートが勉学と競技の両立と言う点に問題を抱えていることが明らかとなった。また早稲田大学スポーツ科学部では多様な入試制度が活用されているが、学生同士の交流の機会は少なく、多様化の真価の問われるものとなった。

〈結章〉

本研究で明らかとなった事柄を踏まえて以下のことを提言する。

・学習面

- ①入学前の大学への課題提出、入学前教育
- ②入学後のフォローの徹底
- ③最低水準に満たない学生の大会出場資格の剥奪

・大学の活性化に向けて

- ①スポーツ科学部以外の学部でも、積極的にスポーツ推薦制度を導入する
- ②学部間を越えたグループ別授業
- ③体育実技の必修化